

全国学力・学習状況調査結果から 児童生徒の学力状況を把握し、指導の改善につなげよう

7月26日に全国学力・学習状況調査結果が各校に返却されました。学力向上担当者が中心となって全教職員で結果を分析し、学力・学習状況改善プラン作成時に役立てるとともに、2学期以降の取組の焦点化に向けて結果の活用をお願いします。



本校では、全国平均点を基準にして成果と課題を明らかにし、課題解消に向けた取組を実施しているのに、今ひとつ成果に結びつかないのはなぜだろう？

全国学力・学習状況調査の結果をどう見取るかで、改善に向けた取組の方向性が決まります。学校全体の傾向を把握したり詳細に分析したりするとともに、児童生徒一人一人の実態を把握することで、有効な手立てを考えることが大切です。



岡山県マスコット
「ももっち」

調査結果を活用し、つまづき解消の取組を図る際の手順の一例（小学校算数を例に）

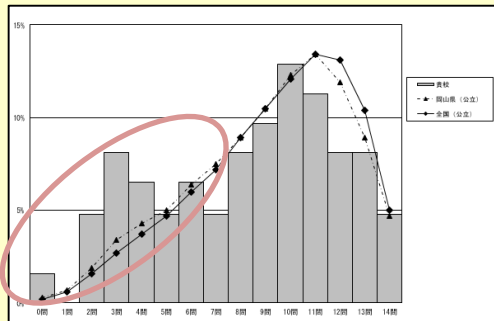
岡山県マスコット「うらっち」

1 文部科学省提供データを、全体の傾向の把握や詳細な分析につなげる

提供資料と特徴

① 調査結果概況で平均正答数の分布を把握する。

【使用ファイル】*****_01調査結果概況



【把握できる内容】

正答数における児童生徒の散らばりの大きさや偏りについて、全国と自校の結果を比較することができます。

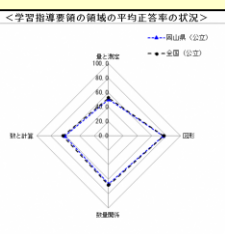
資料活用例

2学期以降の取組を計画するに当たって、散らばりの大きさや偏りに基づき、ターゲットとなる層を明確にします。そして、それぞれの層における取組を明らかにします。

② 問題別調査結果で領域や問題形式別の傾向を把握する。

【使用ファイル】*****_02問題別調査結果

| 集計結果 | | 岡山県(公立) | 全国(公立) | 対象児童数 | 岡山県(公立) | 全国(公立) |
|-----------|-----------------|----------|----------|---------|-----------|--------|
| | | 380 | 19,268 | 16,278 | 1,629,177 | |
| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) | 岡山県(公立) | 全国(公立) | |
| 学習指導要領の領域 | 全体 | 14 | 85 | 86.8 | 83.2 | |
| | 数と計算 | 7 | 81.4 | 83.2 | 83.2 | |
| | 量と測定 | 2 | 59.7 | 53.9 | 53.9 | |
| | 図形 | 2 | 75.8 | 78.7 | 78.7 | |
| | 数量関係 | 3 | 66.3 | 66.3 | 66.3 | |
| 評価の観点 | 算数への関心・意欲・態度 | 0 | 89.5 | 83.2 | 83.2 | |
| | 算数的な考え・方法 | 8 | 71.8 | 72.6 | 72.6 | |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 3 | 68.8 | 70.1 | 70.1 | |
| 問題形式 | 選択式 | 5 | 74.5 | 75.7 | 75.7 | |
| | 記述式 | 4 | 70.8 | 72.8 | 72.8 | |



【把握できる内容】

①学習指導要領の領域、②評価の観点及び③問題形式別の正答率について、全国と自校の結果を比較することができます。

自校の結果について、左記の3点で強みや課題を把握できます。

課題がある領域や問題形式については、授業で必ず解説するとともに、補充学習で、解決を図ります。

重要

③ 問題別（解答類型）調査結果で、詳細な分析をする。

【使用ファイル】*****_03問題別（解答類型）調査結果

| 問題番号 | 問題の概要 | 解答類型 | | | | | | | | | |
|-------|---|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 99 | 無解答 |
| 2 (4) | 洗剤と湯みから使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する | 57.1 | 23.2 | 1.2 | 1.1 | 2.1 | 0.2 | 0.3 | 0.5 | 4.9 | 1.0 |
| 1 | 7 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 2 | 1.3 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 3 | 1.6 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 4 | 2.2 または 2.2 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 5 | 6 または 6.0 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 6 | 1.3.0 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 7 | 1.3 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 8 | 1.6 と解答しているもの | | | | | | | | | | |
| 99 | 上記以外の解答 | | | | | | | | | | |
| 0 | 無解答 | | | | | | | | | | |

【把握できる内容】

各設問における児童生徒の解答状況について、全国と自校の結果を比較することができます。

特定の誤答の割合が高い設問について、児童生徒が、「どこで」「どのように」つまづいたかを把握し、課題となった理由や、解消の手立てを協議しましょう。併せて解説資料や報告書を活用すると、指導の手掛かりを得ることができます。

全国学力・学習状況調査 小学校 算数 2 (4)

趣旨：加法と乗法の混合した整数と少数の計算をすることができるかどうかをみる。

上記の解答類型2、4の反応率の合計は、31.8%である。このように解答した児童は、加法と乗法の混合した計算にもかかわらず、乗法を先に計算せず、 $6 + 0.5$ から計算していると考えられる。

解答類型2は右のように計算していると考えられ、解答類型4はさらに $6 + 0.5$ の計算結果を誤って1.1または11として計算していると考えられる。

解答類型2 ($6 + 0.5$ を先に計算した場合)

(誤答)

$$6 + 0.5 \times 2$$

① $6 + 0.5 = 6.5$

② $6.5 \times 2 = 13$

*平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査報告書より

過去の調査結果から課題とされ、複数回出題されている設問があります。それらの設問への取組の成果がどうであったかを分析することも必要です。全国平均を下回った設問の中にも、大幅に正答率が上昇した場合もありました。

2 指導場面別に学力向上に向けた取組を検証方法も含めて計画する

| 実施計画 | ポイント | 授業 | | 家庭学習 | 補充学習 |
|------|-------|---|------|-------|-------|
| | | 質の向上 | 学習環境 | | |
| | 視点の具体 | 実現できる工夫 | | ねらい教材 | 参加者教材 |
| 検証計画 | | 「だれが」「何を」「いつまでに」「どのように」「何を使って」検証するのかを明確にする。 | | | |

学力調査で最も大切なことの1つに、結果を自身の指導改善に生かすことが挙げられます。児童生徒1人1人の学力状況を把握し、課題解消に取り組みましょう。11月に実施予定の学力定着状況確認テストでは、1人1人の児童生徒における学力改善状況をとおして、学校全体や先生方のこれまでの取組が効果的であったかが、問われます。

